

# 戦略的パートナーとしてのコロンビア： 輸出およびサービス産業における ポテンシャルと成長の機会

駐日コロンビア共和国大使  
グスタボ・マカナキ・コルドバ



グスタボ・マカナキ・コルドバ大使はコロンビアのカリ市出身、1999年にコロンビア外務省入省、2024年12月に駐日大使に就任。外務省入省前は外科医としての経歴をもち、ピッツバーグ大学を含む国際関係学修士号を2つ取得。外交、科学技術、紛争解決、日本語などの研修も受講。20年以上にわたり外交官として活躍し、これまでにベネズエラおよび中国での領事、インドでの経済担当参事官、本省では日本・東南アジア担当顧問や地域統合ワーキンググループ顧問など幅広い分野で実績を重ねてきた。

地政学のおよび世界貿易が困難な局面に直面するなか、コロンビアは中南米地域においてますます重要な存在として頭角を現しています。サプライチェーンの再構築や信頼性と持続可能性を兼ね備えた新たな貿易パートナーの開拓が求められる世界情勢において、このアンデス諸国の輸出のポテンシャルは、経済変革の物語を象徴する事実として示されています。

## 輸出品目の多様化：新たな境地

歴史的に、石炭、石油、金、ニッケルといった鉱物エネルギー資源を除けば、コロンビアはコーヒー、バナナをはじめとする果物、そして生花などの農産物の輸出国として知られてきました。コロンビア国家統計局（DANE）の統計によれば、2025年1月から11月における農業産業部門の輸出額は140億6430万米ドルに達し、前年同期比で36.4%増を記録しました。このうち、生鮮および加工アボカド、カカオ豆とその関連製品などの農業産業製品が同分野の貿易収支に大きく貢献しており、特にカカオとその関連製品は、日本市場に対するコロンビアの供給を活性化させる重要な原動力となっています。これらに加え、鶏肉、卵製品、濃縮果実、冷凍野菜・フルーツなどのほかの製品・農産物も高い輸出のポテンシャルを有していることで注目されています。

特筆すべきは、ここ10年間でコロンビアは輸出品目の多様化を促進し、農産業、製造業、ファッション産業、最新のテクノロジーサービス業に至るまで、より高い付加価値をもつ分野での地位を確立したことです。

製造業の輸出に関しては、2025年1月から11月の間

に100億5060万米ドルを記録し、化学製品（9.3%増）や機械・輸送機品（6.4%）の販売増加に支えられ、4.9%の成長をみせました。製造業では、化粧品およびパーソナルケア製品産業が著しい成長を遂げています。これに加え、コロンビア企業は、国内の生物多様性を活用し、持続可能な製品への世界的な需要の高まりに応えるかたちで、国内特有の天然原料に基づいた革新的な製品を開発し、国際市場への進出を果たしています。

この変革は偶然の産物ではなく、強固な通商政策と国際市場への確固たる開放を連携させた国家ビジョンの成果です。この戦略は、米国、欧州連合、カナダ、および太平洋地域のさまざまな経済圏との間で締結・発効されている17以上の貿易協定という戦略的な架け橋によって具現化されています。この法的・商業的枠組みのおかげで、今日のコロンビア企業は、15億人を超える消費者を擁するグローバル市場への優先的なアクセスを享受しています。この観点から、コロンビアのAPEC（アジア太平洋経済協力）加盟に向けた交渉の重要性が強調されています。

## 競争優位性と生物多様性

コロンビアの主要な競争優位性のひとつに、地理的・気候面での類まれなる資産があげられます。太平洋と大西洋の両方にアクセスできる戦略的立地は、国際貿易における特権的な玄関口としての地位を確立しています。

また、もうひとつの大きな強みは、起伏に富んだ標高差が生み出す気候の多様性です。これにより、年間

を通じて途切れることのない農業生産が可能となり、新鮮な農産物を安定して供給できるという、世界屈指の優位性を同国にもたらしています。この強みは、具体的なビジネスチャンスにつながっており、例えば2025年1月から11月にかけて、コロンビアは18万2432トンのハス・アボカドを輸出しました。これは2024年同期比で21.8%の増加であり、主に米国や欧州の需要にえています。さらに現在は、日本をはじめとするアジア市場へのアボカドやその他の農産物の販路拡大も目指しています。

これまで、生物多様性と農業生産は輸出構造の歴史的な柱となってきましたが、現在のコロンビアの競争力は、こうした有形資産分野のみならず、同様に戦略的な価値をもつ無形資産の分野へと拡大を続けています。



## サービス分野における可能性

拡大を続ける映像業界、アニメーションスタジオ、そしてソフトウェア開発といった分野は、グローバル・バリューチェーンへの参入を拡大しています。こうした背景から、「知識経済」と定義されるこの分野は、高い輸出可能性と生産の高度化を伴う、新たな成長の牽引役となっています。

国内のテック系スタートアップ企業は、現地の人材に対する信頼の証しとして多額の外国投資を呼び込み始めています。フィンテック、アグリテック、ヘルステックといったソリューション開発は、国内ニーズを満たすだけでなく、地域、さらには世界規模での応用の可能性を秘めています。

サービス分野の供給に加え、観光業の卓越した成長が顕著であり、2025年には100億米ドルの記録的な収入を達成し、2026年には750万人の来訪者が見込まれるなど、現在では第2の外資獲得源としての地位を確立しました。持続可能性と高付加価値サービスへの注力、そしてインフラと接続性の向上は、地域開発と経

済安定の原動力として、日本からの投資にとっても戦略的な好機となるでしょう。

## 持続可能性と地域連携

コロンビアは、グリーン水素に関する強固なロードマップと、熱帯生物の多様性に裏打ちされた信頼性の高いカーボンクレジット市場を武器に、地域エネルギー転換のモデルケースとしての地位を確立しました。これらの資産は、脱炭素化を目標に掲げる日本企業にとって、きわめて重要な鍵となります。

また、コロンビアは太平洋同盟との連携を通じて、日本政府が提唱する戦略的資金調達・技術移転スキームである「PLÁCIDA」プラットフォームへの参画を進めています。この取り組みは、日本の優れた技術力を誘致することで、中南米・カリブ海地域のインフラを変革する多角的プロジェクトの開発を目指すものです。

## 広がるチャンス地平線

コロンビアは今、世界経済への参入において決定的な段階にあります。輸出品目の進化、サービス分野の活力、そして天然資源や人的資本の活用は、わが国の供給力がより多様かつ高度なものへと発展し、国際貿易の新たな需要に対応できる力を備えていることを示しています。

このプロセスにおいて、日本はきわめて重要な戦略的パートナーとして浮上しています。強靱なサプライチェーン、エネルギー転換、そして高付加価値サービスに対する日本の関心は、貿易・投資・技術移転のあらゆる面で、コロンビアとのより深い協力の機会を具体的に創出しています。今後の課題は、インフラ整備と生産性の向上を通じて、この潜在力を持続可能な成果へと結びつけることにあります。そのうえ、コロンビアのさらなる経済成長と、世界で最も要求水準の高い国際市場への統合に貢献する二国間関係を強固にしていくことが求められています。

### お問い合わせ

JOI事業企画部  
E-mail: bd@joi.or.jp

### 駐日コロンビア共和国大使館

E-mail: ejapan@cancilleria.gov.co  
[https://japon.embajada.gov.co//](https://japon.embajada.gov.co/)